（一社）海外と文化を交流する会 ミニレター 2023 年 12 月発行

会員のみなさま

日頃、海外と文化を交流する会に深いご理解とご支援を賜りまして、心よりお礼を申し上げます。コロナ当初より会は休むことなく活動に励んでおります。その成果のご報告を、今回ミニレターの形式で、以下レポートさせていただきます。

今年はオーストラリアの首都キャンベラ市と奈良市との姉妹都市提携３０周年を迎えております。この記念すべき年にキャンベラのオーストラリア国立美術館（NGA）所蔵となっている日本画 25 点の中の鈴木竹柏画伯「大和路」が在オーストラリア日本大使公邸に 1 年間飾られることに決定いたしました。

日本大使館公邸に 1 年間も展示していただけることは、大変名誉なことであり、会員のみなさまとその喜びを分かち合いたいと思います。

■キャンベラ市と奈良市との姉妹都市提携 30 周年

奈良市とキャンベラ市は 1993 年に姉妹都市提携を結び､両市の学校間交流などの教育交流、スポーツ交流、文化交流などが盛んに行われています。今年提携 30 周年を迎えました。

■鈴木竹柏画伯「大和路」の掲示について

当会はコロナ禍より豪州におけるプロジェクトマネージャー西村美香氏と連携を取り、寄贈 25 点の近代日本画を一人でも多くの豪州の方に見ていただけるチャンスを探っておりました。この度、在オーストラリア特命全権大使 鈴木 量博様(写真)や大使館、NGA の皆様のご理解とご協力の元、姉妹都市提携 30 周年のお祝いのレセプションの場で展示されることが決まりました（展示は向こう 1 年間の予定）。

（画像出典:在オーストラリア日本大使館）

■鈴木竹柏画伯「大和路」

鈴木竹柏画伯「大和路」は 1977 年に日本から豪州の国民に寄贈された 25 点の中の 1 点です。次頁の画像が「大和路」です。日本画を象徴する色の 2 つに”朱”と”青丹（あおに）”があります。日本画でよく描かれる赤富士などは正に朱に染まる夕焼けで日本画の原点とも言えます。大和路も、ご覧の様に全体に”朱”が多用され、朱色も様々だが、銀朱が使われています。

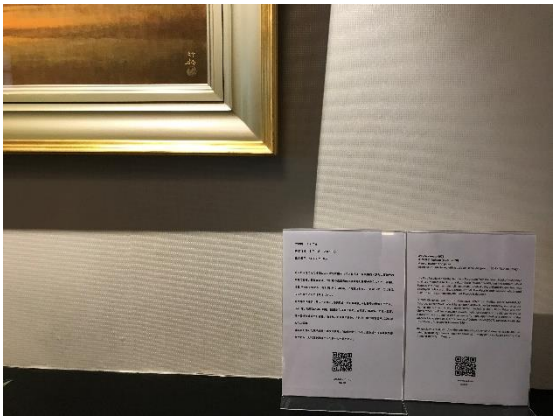
「大和路」の絵はこの様なことからも
・日本画を代表する土地である”奈良”の風景
・日本画の代表的な”朱”を全面に配色
したものとして、姉妹都市 30 周年の祝福にふさわしい 1 枚と言えます。

■展示の際のキャプションについて
大使館にご来館のお客様に対して、絵にご興味を持っていただいた方に、さまざまなシーンに応用されている QR コード（読み取ってホームページの URL に遷移）で全 25 点の寄贈画の紹介と当会の創設者松岡朝に関する説明をご覧いただける様に準備をいたしました。

・絵の横に掲示したキャプション
「大和路」1976　鈴木竹柏（1918 - 2020）　紙本着色　53.4 x 73.0cm

前面の大池の向こう側に山を背景に描かれている塔は、奈良市西ノ京町の薬師寺の東塔ある。薬師寺には、697 年の完成当時には東塔と西塔が存在したが、西塔は 1528 年の乱で焼失し、昭和 56 年（1981 年）に再建された。したがって、この作品に描かれているのは東塔である。

鈴木竹柏は神奈川県に生まれる。逗子開成中学を卒業後、中村岳陵の内弟子となる。1943年、院展初入選。戦後、院展から日展に転じ、白寿賞、菊華賞、文部大臣賞、日本芸術院賞などを受賞。1965年、始玄会汇参加。1994年、勲三等瑞宝幸、2007年文化功労者。日本画を含めた東洋絵画で重視される、“気韻生動”、つまり気を描く描写表現を得意とする。大和路を題材とした多くの作品がある。



（画像出典:在オーストラリア日本大使館）

・キャプションの下に印字したQRコード

以下のQRコードは実際に「大和路」の傍に掲示されているものです。是非スマートフォンのリーダー機能を使って読み取っていただければ幸いです。

—日本語ページー　　—英語ページー

日本語のQRコードから遷移していただくと以下の文章を読むことが可能です。

・松岡朝の説明と寄贈の経緯

この作品は、オーストラリア国立美術館が所蔵する日本画コレクションの一部である。このコレクションは、国際派の先駆者である松岡朝（1893-1980）の不朽の遺産である。松岡はニューヨークのメトロポリタン美術館に於いて日本美術コレクションで働く傍ら、日本人女性として初めてアメリカで博士号を取得した。コロンビア大学での学位論文のタイトルは「日本における労働婦女子の保護法について」である。第二次世界大戦の際、中国で「南京児童学園」と孤児のための炊き出しをおこなう「松岡施粥廠」を開設。戦後は日本ユニセフ協会を設立し、専務理事に就任。73 歳で引退するまで、恵まれない子どもたちに食事や教育を提供する活動に尽力した。その後文化事業の大使としての活動を続け、2年後には海外と文化を交流する会（ICAIS）を設立した。

松岡朝が 「オーストラリア国民との親善のシンボルとして、日本文化の真髄である最高の日本美術作品を贈りたい」と考えたのは1972年のことだった。日本の文化勲章や文化功労

章などの受章者である当時の日本画の第一人者 25 人に、それぞれ新作を描いてもらい、オーストラリアの人々に寄贈してもらうまでには、5 年の努力と莫大な資金が必要だった。松岡朝が 84 歳を迎えた 1977 年、ビクトリア美術館（メルボルン）で 25 点の日本画展が開催された。松岡朝のコミットメントは、オーストラリアの一般の人々にこれらの日本画を鑑賞する機会を提供し、日豪間の文化理解を深めることであった。

・寄贈画 25 点の本質的な価値について
日本の絵画の歴史は古く AC700 年頃 飛鳥・奈良時代からの作品が現存する。
現在の日本画の技法の確立は、AC1100 頃平安時代に描かれた源氏物語絵巻(12 世紀)と理解されており、現在に至っている。およそ 1000 年を、伝統を重んじて絵画(美術)の技法は伝承され、特に重要な技術技法は秘伝として 師から弟子へと直伝され、また独特の道具も製作された。

明治以降の近代・現代絵画も、同様な伝承を形を変えて守って おり、日本特有の団体公募絵画展覧会組織は、ヨーロッパなどにみられた絵画工房集団（例、レオナルド ・ダ・ヴィンチが学んだアンドレーア・デル・ヴェルロッキォの工房)アンドレーア工房と同様に日本では江戸時代にみられた絵画工房集団 狩野派、岸派、円山派などが系図的につながって生まれて来た。
明治期に美術学校が創設された時、そこで指導を担ったのが絵画団体の中心メンバーであった。特に明治以降 日本の伝統技法を用いて描かれた絵画を総称して[日本画] と呼ぶようになり、「江戸時代から工房で伝えられてきた」技術技法が教育の場で指導という形で伝承される事になった。

オーストラリア国に寄贈された日本画 25 点の作者の方々の多くは、その教育の現場に立って後進の指導にあたられ、私もその中のお二人、塩出英雄教授、麻田鷹司教授に指導を受けた。またこの 25 名は、明治・大正・昭和にかけて活躍された方々で、その作品は日本の多くの美術館に収蔵されており、日本を代表する作家である。従って、これらの日本画は、日本にとって大変貴重な作品群である。以上ここにオーストラリアに礼を持って絵を寄贈された敬愛する松岡朝女史の強い思いで選ばれた 25 作品と 25 名の作者の紹介をいたした次第である。

元多摩美術大学 日本画教授　創画会会員 北條正庸

日本画コレクション

これらの情報を QR コードから遷移して見て、読んでいただける仕様にいたしました。

■「大和路」が展示されている大使公邸

（公邸内の）床間の様になっている場所に「大和路」を飾って頂き、最近設置していただいた日本製の照明も部屋の雰囲気を和らげてくれ額のガラスの反射を少なくする効果があった為、日本画の奥行きある色などもよく見えるようになって、とても良かったです。（実際に絵を見にいっていただいた西村氏の感想）

画像出典:在オーストラリア日本大使館

■その他

・奈良市長のご訪豪

奈良市長仲川 げん様、奈良市議会副議長九里 雄二様、同観光文教委員会委員長鍵田 美智子様が、11月3日からキャンベラを訪問、6日の大使館公邸でのレセプションでは奈良市の特産品「日本酒」と「奈良漬」を提供し、参加者から高評価を得た様です。（奈良市役所サイトから抜粋）

画像出典:在オーストラリア日本大使館

■「大和路」展示と寄贈画の今後

当会は2020年より在シドニーの西村氏をプロジェクトマネージャーとして迎え、寄贈画のオーストラリアでの展示活用に向けて積極的に動いて参りました。コロナ禍の中、思う様に物事が進まない中、オーストラリア国立美術館や首都・キャンベラおよびその周辺地域から構成されるACT政府[オーストラリア首都特別地域（Australian Capital Territory 略称: ACT）]関係者、元豪州駐日大使と試行錯誤の中、協議を重ねてきました。今回の「大和路」は西村氏の日頃のご努力や関係者の働きかけ、またいくつかの偶然で実現することができました。ここに関係いただいたすべての方に感謝の気持ちをお伝えすると共に、25点の珠玉の近代日本画がオーストラリアの地にあることを多くの人にまず知っていただき、両国の文化交流の為に更に有効活用されることを願ってやみません。

本年 11 月に日本に一時帰国された西村美香氏と松岡常務理事

(山種美術館　奥村土牛「山中湖富士」　寄贈画25点には奥村土牛画も含まれる)

以上